

# 登別中学校 学校適正配置に関する地区別検討委員会

## 第6回まちづくり部会 会議次第

日時 令和4年10月6日（木）13時30分

場所 登別市婦人センター講堂（2F）

### 1. 開会

### 2. 情報提供

（1）教育環境部会の議論の動向について

### 3. 協議事項

（1）各方面との意見交換の結果を踏まえて

### 4. その他

### 5. 閉会

# 教育環境部会の 議論の動向について

令和4年10月6日  
登別市教育委員会

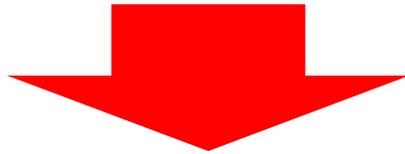
# 教育環境部会の目的

- 子どもたちの教育環境という側面から、登別中学校の今後のあり方を議論。
- 仮に統合するとした場合の環境整備面の条件を議論。
- 上記を踏まえ、教育環境面から見た統合の是非について方向性を議論。

# 教育環境部会：これまでの議論

## 第2回教育環境部会（R4.5.25開催）

- 現鷺別中学校教諭を招き、室蘭市立中学校在職時の学校統合の経験に関し情報収集。

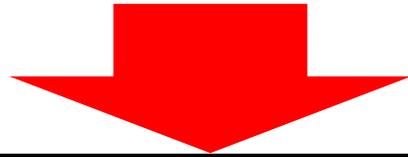


- ⇒ 行事等が盛り上がり学級間の競争が生まれた。
- ⇒ 学習面でも切磋琢磨する環境が生まれた。
- ⇒ 部活動の選択肢が増加。
- ⇒ クラス替えが生じ人間関係の幅が広く。
- ⇒ 教員数の増加でグループ学習等が可能に。
- ⇒ 授業以外の時間も共に過ごすなど丁寧にケア。

# 教育環境部会：これまでの議論

## 第3回教育環境部会（R4.6.1開催）

- 旧温泉小学校及び中学校の同窓生を招き、小規模校や統合時の経験に関し情報収集。

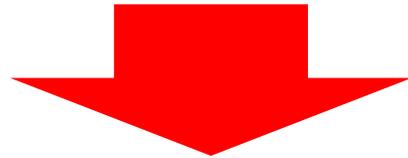


- ⇒ 統合により生徒間の競争などで学習意欲は上がった。
- ⇒ 旧温中時代は生徒先生の距離が近く学習意欲上がらず。
- ⇒ 集団で友達を作る経験をして高校で生かされた。
- ⇒ 女子特有の人間関係を経験できたのは良かった。
- ⇒ 集団内で人間関係を作る経験を持つことができた。
- ⇒ 高校入学時の戸惑いが大きかった（温中卒業生）。

# 教育環境部会：これまでの議論

## 第4回教育環境部会（R4.6.23）

- 第2回、第3回の結果を踏まえて、登別中学校の今後のあり方や統合の是非について議論。

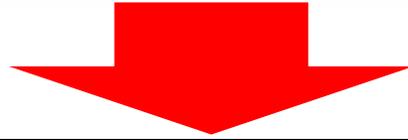


⇒ 中学校が無くなれば、登別地区に住む人がより少なくなってしまうのではないか。

⇒ 町への影響を考えても、現在は決めかねているというのが正直な感想。

⇒ いつかは統合せざるを得ないと思っていた。

# 第4回における部会員による意見

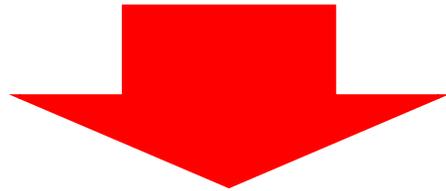


- ⇒ これからの子どもたちのことを考えれば、統合の方向性で進んでいくのがよいのではないか。
- ⇒ 統合により人間性を培う面でも必ず良い影響がある。
- ⇒ 子どもたちのケアを行い、統合の方向性に進むべき。
- ⇒ まちづくりの面で不安はあるだろうが、統合の方向性で進むべき。
- ⇒ 子どもを増やすといっても、人口増加は一朝一夕に効果が上がるものではない。

# 教育環境部会：これまでの議論

## 第5回教育環境部会（R4.7.20）

- 第4回に引き続き、登別中学校の今後のあり方や統合の是非について議論。



- ⇒ いずれかの段階で統合が必要なのは理解できるし、子どもたちにとっても良い影響があるものと思う。
- ⇒ ただ、学校が無くなることにより、この地域の良さが薄れていくことへの怖さもあり、葛藤している。

# 第5回における部会員による意見



- ⇒子どもの将来を考えても、様々なチャンス子どもたちに用意し、可能性を広げるのは大人の責任だと思う。
- ⇒地域とのつながりが大事なのは理解しているが、このままでは子どものチャンスを奪うことになる。そうした意味でも学区の見直し（統合）は避けて通れない。
- ⇒現状に満足し、向上心や競争心に欠ける部分があるので、統合により競争環境が生まれるのは良いことだと思う。
- ⇒ただ、新しい環境に馴染めない子どもたちへのケアをしっかりとやっていただきたい。

# 第5回における部会員による意見



- ⇒小中一貫校や虎杖浜地区との連携により、小規模化の課題を解決する方法はないのか検討が必要。
- ⇒統合により子どもたちにメリットはあると思うが、馴染めず苦しむ子どももいるはず。様々な声を拾うべき。
- ⇒特に未就学児童の保護者の声を拾いあげる機会をあらためて設けるべきではないか。



- 小中一貫校や虎杖浜地区との連携の可能性を検証
- 未就学児童保護者や幼稚園関係者との意見交換を実施

# 教育環境部会：これまでの議論

## 第6回教育環境部会（R4.8.25）

- 第1部では、未就学児童保護者や幼稚園関係者との意見交換を実施。
- 子どもの成長を考えれば、中学校の大事な時期を少人数で過ごすのではなく、人数の多い所で幅を広げて生活するのが良い（未就学児童保護者）。
- 高校進学時のギャップを考えれば、統合は良いこと（未就学児童保護者）。
- 横のつながりを作るという意味でも、統合はプラスになる（未就学児童保護者）。

# 第6回における議論の経過

## ※未就学児童保護者や幼稚園関係者との意見交換の結果

(登中出身でなく、両親もこの地区に居なかった場合、この地区に家を建てたかとの質問に対し)

- 居住者同士のつながりに惹かれており、建てたと思う。
- 暖かい人達の中で育てたいという思いが強いので、この地区に建てたと思う（ともに未就学児童保護者）。

(登別中学校が無くなった場合の影響について)

- この地区に家を建てる人が居なくなってしまう。
- その結果、人口が減少し、経済が停滞して、町が無くなってしまおう（ともに幼稚園関係者）。

# 第6回における議論の経過

- 第2部では、小中一貫教育や虎杖浜地区との連携の可能性に関し、事務局より説明あり。

## (小中一貫教育について)

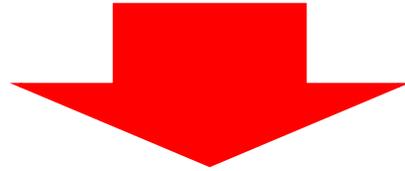
- 中1ギャップへの対応などを目的としたものであり、学校小規模化への対策ではない。
- 人間関係の固定化、競争意識の低下、部活動の縮小といった小規模化の弊害の解消には繋がらず。

## (虎杖浜地区との連携について)

- 虎杖浜地区の子どもの数は限られ、学校小規模化の対策にはならず（虎杖浜小学校全校児童34人※R4実績）。

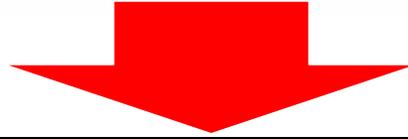
# 第6回における議論の経過

- 第1部、第2部の結果を踏まえて、登別中学校の今後のあり方や統合の是非について議論。



- ⇒ 親の立場で子ども的人数を考えれば、統合が必要なのかと考える部分はある。
- ⇒ ただ、まちづくりや仕事に携わる立場で考えれば、中学校はあった方がいいとなり、判断が難しい。
- ⇒ この部会は教育環境の観点から考える場。まちづくりなどの話は委員会本体で議論することになるのでは。

# 第6回における議論の経過



- ⇒子どもたちの日々の生活を考えると、親や地域の判断でより良い環境を作るべきと考える。
- ⇒地域の横のつながりを強く感じるとの意見も多かった。仮に学校統合があったとしても、それを利用しながら魅力的なまちづくりを進めていくべきなのではないか。

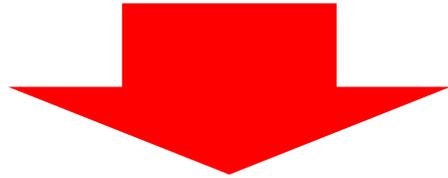


部会長として議論のまとめ（案）を作成し、  
次回（第7回）はこれをたたき台に議論

# 教育環境部会：これまでの議論

## 第7回教育環境部会（R4.9.22）

- 部会長作成の議論のまとめ（案）をたたき台に、登別中学校の今後のあり方や統合の是非について議論。



- ⇒ 統合に際して話し合わなければならないことはたくさんある。それらを基本的条件として明記する必要がある。
- ⇒ また、それら基本的条件の中には、幌別中学校側と話し合わなければならない事項も多いものとする。

# 第7回における議論の経過



- ⇒ まとめの方向性としては理解するが、年度（令和7年度）を限ることには疑問があるほか、結論の言葉遣いが強すぎるように感じる。
- ⇒ 議論をまとめる以上、年度は明記せざるを得ないのではないか（日程を示して欲しいとの意見も多かった）。
- ⇒ （統合ではなく）校区拡大と言うべきではないか。



部会長として結論部分の文言修正を行い、  
次回（第8回）これに関し議論

# 各方面との意見交換のまとめ

令和4年10月6日  
登別市教育委員会

# 第3回（6/23開催）における 意見交換のまとめ

# 第3回（6/23開催）「意見交換会」について

## 【参加者】

登別国際観光コンベンション協会 大野さん、吉田さん

登別温泉旅館組合 山口さん

登別商工会議所 山本さん、田中さん

観光まちづくり協議会 辻さん

## 【内容】

- 学校の有無による居住地選択への影響について
- 学校の有無による労働力確保への影響について
- 登別中学校の統合についてetc.

## 第3回（6/23開催）における意見交換のまとめ

- 基幹産業である観光の雇用を支えるということと、中学校を統合するという事は両立しないのではないか。
- 学校が遠くなれば親の送迎の手間が増え、労働に割く時間が少なくなる。ひいては労働力の確保が難しくなる。
- 子どもの数が減るという見通しの中で動くのではなく、増やす方策を考えるべき。

## 第3回（6/23開催）における意見交換のまとめ

- 子どもたちが置かれている環境を見ても、統合が必要な状況にあるのは明らか。
- 保護者の立場としては、もっと早く統合の議論があっても良かったと思っている。
- 中学校で行われてきた地域への愛着を深める取組（熊舞や鬼踊りなど）は重要。
- そうした取組が観光産業の人材確保に寄与。登別地区は人材供給地として可能性あり。

## 第3回（6/23開催）における意見交換のまとめ

- 統合により幌別地区と登別地区の心理的距離が近くなり、雇用先が広がるのではないか。
- まちづくりにとっての学校ではなく、教育環境としてどうあるべきなのかを考えるべき。
- 子どもには、早い段階で少しでも大きい学校で様々な経験を積ませるべき。
- そうすることで優秀な人材が育ち、将来のまちづくりにもプラスになる。

## 第3回（6/23開催）における意見交換のまとめ

- 登別小学校は未来の存続のためにも、しっかりと守っていくべき。
- 小学校の有無は定住地の選択に影響を与えるが、中学校の有無との関係性は強くない。
- 中学校の有無が居住地の選択に影響を与えることはないのではないか。
- これを機会に、若い世代が居住地を選ぶ基準をしっかりと議論し、まちづくりに繋げるべき。

# 第5回（9/1開催）における 意見交換のまとめ

# 第5回（9/1開催）「意見交換会」について

## 【参加者】

三愛病院 千葉さん

登別伊達時代村 岸さん

北海道コンクリート登別工場 家政さん

JCHO登別病院 山村さん

## 【内容】

- 事業所の現状
- 非常時の対応
- 登別中学校の統合について etc.

# 意見交換のまとめ 「事業所の現状」

- 従業員で登別地区に居住しているのは10名程度。元々少ないことに加え、特に結婚すると、幌別以東に転居してしまう印象がある。
- 利便性の問題もあり、他地区を居住地に選ぶ傾向があるものと思われる。
- 登別地区に寮があるが、結婚すると転居してしまう印象がある。
- 物件が少なく、転居せざるを得ない面はあるかもしれない。

# 意見交換のまとめ 「事業所の現状」

- スタッフの子育て世代は、幌別地区や若草地区の居住者が多い。
- 学校入学前はコロポックルの森を利用し、小学校以降は居住地の学校を利用するケースが多い。
- 従業員のうち登別居住者は7～8世帯程度。独身寮は数年前廃止、社宅も本年末で退去の予定。
- 労働力の確保という点では、就業地に住んでもらう時代ではない（居住地からの通勤が前提）。

# 意見交換のまとめ 「非常時の対応」

- 非常時を考えれば、就業地近くに多くの職員が居住するのが望ましい。
- しかし、寮を整備してもなかなか住んでももらえないので、それを前提に危機管理を行っている。
- 登別地区に寮と社宅があるものの、なかなか住んでももらえない。
- このため非常時には幌別地区等から駆け付けることになる。短時間の参集が望ましいが、仕方ないものと思っている。

## 意見交換のまとめ「登別中学校の統合について」

- 子どもが少ないのは残念だが、増えるとも考えにくく、子どもの成長にとっていかなものか。
- まちづくりの面で学校は重要だが、学校の現状から、教育的にどうなのかという気持ちである。
- 中学校が無くなるのは悲しい部分はある。
- ただ、いずれ何らかの変化はあるものと思っていたし、変えなければならぬのは理解している（それが今かとなると悩ましいが）。

## 意見交換のまとめ 「登別中学校の統合について」

- 母校が無くなるとすれば寂しいが、これだけ小規模な学校で教育していくのは良いことなのか。
- 人口減少時には学校を減らす方向に向かうのは仕方ないし、現在の状態を続けることが良いことなのか考えなければならない。
- 子育て世代に聞くと、人数が少ないのであれば仕方ないという意見が多い。
- 幌別地区の学校も人数が減ってきているので、将来的にはより大きな統合があるのではないか。

## まちづくり部会における議論のポイント ～各方面との意見交換の結果も踏まえながら～

### ①中学校の有無が居住地の選択に影響を与えるか否かについて

まちづくり部会では、地区から登別中学校が無くなることにより、人口が減少してしまうとの議論がなされてきた。これについて、各方面との意見交換の結果も踏まえて再議論する必要はないか。

#### 【各方面との意見交換】

- ・小学校の有無は定住地の選択に影響を与えるが、中学校の有無との関係性は強くない（第3回におけるコンベンション協会等との意見交換）。
- ・中学校の有無が居住地の選択に影響を与えることはないのではないか（第3回におけるコンベンション協会等との意見交換）。
- ・これを機会に、若い世代が居住地を選ぶ基準をしっかりと議論し、まちづくりに繋げるべき（第3回におけるコンベンション協会等との意見交換）。
- ・従業員で登別地区に居住しているのは10名程度。特に結婚すると、幌別以東に転居してしまう印象がある（第5回における事業所との意見交換）。
- ・利便性の問題もあり、他地区を居住地に選ぶ傾向があるものと思われる（第5回における事業所との意見交換）。

### ②人口増加策により学校を維持することの正否について

これまでの議論では、人口増加策により子どもの数を増やし、学校を維持してはどうかとの意見が多く聞かれた。ただ、望ましい学級規模（中学校の場合1学年2クラス以上）を確保するためには、各学年20人以上の子どもを増やさなければならず、現実的な方策と言えるのか議論が必要ではないか。

### ③教育環境とまちづくり、どちらを重視するかについて

学校はまちづくりの面でも地域で大きな役割を担っており、部会でも、まちづくりの観点から、その必要性に関し議論がなされてきた。これについて、各方面との意見交換の結果を踏まえて、再議論する必要はないか。

#### 【各方面との意見交換】

- ・子どもたちが置かれている環境を見ても、統合が必要なのは明らか。保護者の立場としては、もっと早く統合の議論があっても良かったと思っている（第3回におけるコンベンション協会等との意見交換）。
- ・まちづくりにとっての学校ではなく、まずは教育環境としてどうあるべきかを考えるべき（第3回におけるコンベンション協会等との意見交換）。

- 子どもには、早い段階で少しでも大きい学校で様々な経験積ませるべき。そうすることで優秀な人材が育ち、まちづくりにもプラスになる（第3回におけるコンベンション協会等との意見交換）。
- まちづくりの面で学校は重要だが、学校の現状から、教育的にどうなのかという気持ちである（第5回における事業所との意見交換）。
- 母校が無くなるのは寂しいが、これだけ小規模な学校で教育していくのは良いことなのか。現在の状態を続けるのが良いことなのか考えなければならない（第5回における事業所との意見交換）。

#### ④登別中学校の跡地利用をはじめとした地域活性化策について

これまでの議論では、登別中学校の跡地利用やその他の地域活性化策については、特に議論は行われてこなかった。ただ、JCHO 登別病院の移転や情報発信拠点施設「ヌプル」の完成など、登別地区の状況は大きく変わりつつあり、仮に登別中学校の跡地を有効活用することができれば、これまでの取組と合わせて、地域活性化の起爆剤となる可能性がある。

市としても、仮に登別中学校が統合となった場合には、民間事業者の意向調査を行うほか、地域の意見を聞きながら、活用策を探ることを想定しているところ。例えば、民間事業者への意向調査を行うことと併行し、観光まちづくり協議会などにおいて、登別中学校の跡地利用に関し考えていく用意がある。

#### ⑤登別中学校の特色ある取組について

登別中学校では、熊舞や鬼踊りなど、観光地に隣接する地区特有の取組が行われており、それらは地域の財産である。これまでの意見交換においても、そうした意見が多数聞かれたところ。よって、仮に統合を容認するということになれば、それら特色ある取組を持続していく仕組みに関し議論することも必要となる。

#### 【各方面との意見交換】

- 登別中学校で行われてきた地域への愛着を深める取組（熊舞や鬼踊りなど）は重要（第3回におけるコンベンション協会等との意見交換）。
- そうした取組が観光産業の人材確保に寄与してきた面がある。登別地区は人材供給地として可能性あり（第3回におけるコンベンション協会等との意見交換）。